

令和8年度 日本大学経済学部 総合型選抜（探究学習評価型）
志望・学習計画書、口頭試問の講評

日 本 大 学 経 済 学 部

このたびは、日本大学経済学部の総合型選抜（探究学習評価型）に御出願いただきありがとうございました。

「志望・学習計画書」及び「口頭試問」について選考の結果、次のとおり講評いたします。

なお、御質問には一切応じかねますので御了承ください。

「志望・学習計画書」講評

「志望・学習計画書」の審査においては、次の3点を中心に評価を行った。

1. 「日本大学経済学部」に対する志望動機が明確であるか。
2. 探究活動を踏まえた上で、志望理由と入学後の学習計画が書かれているか。
3. 入学後の学習の目標、目標達成の方法とプロセス、学習成果の活用方法などが説明されているか。

以上3点のそれぞれについて、自身の経験や考えを基に、分かりやすく具体的に述べているものに評価を与えた。特に、探究活動においてどのような学びを得たかを説明し、それが本学部への志望にどのように繋がったか、論理的かつ一貫性のあるものに高い評価を与えた。

一方で、本学部への志望動機が明確でないものや、高等学校等における探究活動の経験が書かれていなかったり、書かれている内容が探究活動のものかどうか不明瞭であったりしたものについては、高い評価を与えることができなかった。また、入学後の学習計画が、書かれていた探究活動や志望動機との関連性や因果性が低く、一般的なことが列挙されているものについても、あまり高い評価を与えることができなかった。

全体の傾向として、応募者の将来のキャリア目標を最初に示した上で、探究活動において何を行い、何を感じ学んだかを述べ、それを踏まえた上で、本学部への志望動機を述べ、入学後への学習計画へ繋げる志望・学習計画書が多かった。全体を通して整合性があり、文法に間違いがないことも、評価を分ける一因となった。

「口頭試問」講評

1. 総評

提出された探究活動の成果物と概要説明書を基に、口頭試問によって評価を行った。提出された成果物の中には、学部の卒業論文の水準に到達しているものや、適切かつ十分な量の研究論文を収集し読み込みながら取り組まれたもの、妥当な手法で調査を実施したものがあつた。また、探究活動終了後も実生活の中で関連する課題の解決に取り組んでいる受験生も見られた。一方で、受験生が問いを立てたり、情報の収集、整理、分析をしたりする過程で教師がともに考え、必要に応じた手引きを行うといったことが十分にされていないために探究が深まっていないと考えられる事例も見られた。評価項目ごとの講評は以下の通りである。

2. 評価項目ごとの講評

①探究活動のプロセス

実社会、実生活と自己との関わりから問いを見出して取り組んだもの、課題が学校や教師から

与えられた場合であってもその後主体的に受け止めたり当事者意識を持ったりして取り組んだものの、取り組んだ探究の面白さを説明できたもの、探究が未完であっても残された課題や探究の限界を明確に指摘していたものを高く評価した。一方で、体験先の訪問記録、収集した資料の解説などにとどまっているものは低い評価となった。

②知識・関心

探究した課題に関係するキーワードを適切に説明できたもの、調査手法や分析方法が妥当なものの、サンプル数に制約があったとしてもそれを踏まえて慎重な結論を導く必要があることを理解しているもの、探究活動を通して新たな問いを立てているもの、予算などの制約がなければさらに探究が深まる見通しを示したものを高く評価した。一方で、用語や分析方法を正しく説明できなかったものは低い評価となった。

③論理的な思考力・表現力

目的、方法、結果、考察の整合性がとれているもの、図表やデータを根拠として説明できているものを高く評価した。一方で、結果にもとづかず考察や結論を導いていた、不適切な口語表現やくだけた語彙を用いたりしているものは低い評価となった。

④学習態度

探究活動を通して学んだことと具体的に結びつけて他者と協働する意義を説明したもの、異なる立場や考え方の人々との対話や分かち合いが探究の推進や深化に不可欠であることを明確に述べているものを高く評価した。一方で、他者から参考となる意見が得られるといった程度の説明にとどまったものは低い評価となった。

以 上